

第1回やなせたかし文化賞 選定委員

(敬称略。委員長以下 50 音順)

選定委員長

里中 満智子 (さとなか まちこ / 漫画家)

大阪府出身。高校在学時に「ピアの肖像」で第1回講談社新人漫画賞受賞。プロとして活動に入る。1974年『あした輝く』『姫がいく!』の両作品で講談社出版文化賞受賞。1982年『狩人の星座』で講談社漫画賞受賞。53年に渡り500タイトル近くの作品を描く。主な作品に『アリエスの乙女たち』『あかね雲』『海のオーロラ』『あすなろ坂』『狩人の星座』『スポットライト』『愛人たち』『北回帰線』など。歴史を扱った作品も多く『女帝の手記』『長屋王残照記』『アトンの娘』『ギリシア神話』『古事記』など多数。持統天皇を主人公とした『天上の虹』は32年をかけて2015年3月に完結した。2006年に全作品及び文化活動に対し文部科学大臣賞受賞。2010年文化庁長官表彰受賞。2013年度『マンガ古典文学 / 古事記』古事記出版大賞太安万侶賞受賞。2014年外務大臣表彰受賞。公益社団法人日本漫画家協会常務理事、一般社団法人マンガジャパン代表、大阪芸術大学キャラクター造形学科学科長などを務める。

選定委員

内川 雅彦 (うちかわ まさひこ / 高知新聞社論説委員)

高知県出身。1988年高知新聞社入社。学芸部副部長時代の2009年4月から4年半、社のOBでもあるやなせたかしの月2回連載「オイドル絵っせい」の4代目担当を務める。連載は1999年、やなせたかし80歳の年にスタートし、2013年11月に322回で終了。遺稿となった4本を最終回にまとめて特集で掲載した。学芸部長、編集委員学芸分野担当などを経て2016年4月から論説委員。

宇野 亜喜良 (うの あきら / イラストレーター)

名古屋市出身。名古屋市立工芸高校図案科卒業。カルピス食品工業、日本デザイ

ンセンター、スタジオ・イルファイルを経てフリー。日宣美特選、日宣美会員賞、講談社出版文化賞さしえ賞、サンリオ美術賞、赤い鳥挿絵賞、日本絵本賞、全広連日本宣伝賞山名賞、読売演劇大賞選考委員特別賞などを受賞。1999年紫綬褒章、2010年旭日小綬章受章。主な作品に『宇野亞喜良 60年代ポスター集』（スペースシャワーネットワーク）、『奥の横道』（幻戯書房）、『MONO AQUIRAX+』（愛育社）、『宇野亞喜良クロニクル』（グラフィック社）、『宇野亞喜良ファンタジー挿絵の世界』（パイインターナショナル）、絵本に『あのこ』（今江祥智・文、理論社）、『白猫亭 追憶の多い料理店』（小学館）、『上海異人娼館』（寺山修司・原作、アトーン）、『おおきなひとみ』（谷川俊太郎・詩、芸術新聞社）、『X字架』『恋人たち』（以上、穂村弘・文、芸術新聞社）、『2ひきのねこ』（宇野亞喜良・文／絵、ブロンズ新社）など。刈谷市美術館、Bunkamura ギャラリー他、個展多数。キュレーターや舞台美術も手がける。

梯 久美子（かけはし くみこ／作家）

熊本県出身。北海道大学文学部卒業後、やなせたかしが編集長を務めた雑誌『詩とメルヘン』（サンリオ）の編集者となる。のちにノンフィクション作家となり、『散るぞ悲しき 硫黄島総指揮官・栗林忠道』（新潮文庫）で第37回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。同書は米・英・仏など世界8か国で翻訳出版されている。戦争体験者に取材した三部作『昭和二十年夏、僕は兵士だった』『昭和二十年夏、女たちの戦争』『昭和二十年夏、子供たちが見た戦争』（以上、角川文庫）、『百年の手紙 日本人が遺したことば』（岩波新書）、『勇気の花がひらくとき やなせたかしとアンパンマンの物語』（フレーベル館）など著書多数。『狂うひと「死の棘」の妻・島尾ミホ』（新潮社）で第68回読売文学賞（評論・伝記賞）、第67回芸術選奨文部科学大臣賞、第39回講談社ノンフィクション賞受賞。

立原 えりか（たちほら えりか／童話作家）

東京都出身。幼いころにアンデルセン作品と出会い、童話作家を志す。1959年にデビュー作の童話集『人魚のくつ』（思潮社）で児童文学者協会新人賞受賞。1961年『でかでか人とちびちび人』（講談社）で講談社児童文学新人賞受賞。以来、繊細で美しいファンタジーの世界を発表しつづけている。主な作品に『木馬

がのった白い船』(角川文庫、講談社文庫)、『まどろみの夢から夢へ』(近代文芸社)、『アンデルセンへの旅』(アートデイズ)、『立原えりか自選26の花』(愛育社)など多数。

ちば てつや (ちば てつや/漫画家)

東京都出身。1939年に築地で生まれ、同年11月に朝鮮半島を経て、1941年1月旧満州・奉天(現中国・遼寧省瀋陽)に渡る。1945年終戦。翌年中国より引揚げる。1950年、友人の作る漫画同人誌『漫画クラブ』に参加。1956年、単行本作品でプロデビュー。1958年『ママのバイオリン』で雑誌連載を始め、1961年『ちかいの魔球』で週刊少年誌にデビュー。1962年『1・2・3と4・5・ロク』(講談社)で第3回講談社児童まんが賞受賞。1976年『おれは鉄兵』(講談社)で第7回講談社出版文化賞受賞。『のたり松太郎』(小学館)で1977年第6回日本漫画家協会賞特別賞、第23回小学館漫画賞を受賞。2001年に、これまでの青少年・少女に元気を与え続けた全作品に対して文部科学大臣賞を受賞。2002年紫綬褒章受章。公益社団法人日本漫画家協会理事長を務める。主な作品に『ユキの太陽』『紫電改のタカ』『ハリスの旋風』『みそっかす』『あしたのジョー』『あした天気になあれ』(以上、講談社)など多数。

古川 佳代子 (ふるかわ かよこ/認定NPO法人高知こどもの図書館館長)

高知県出身。公務員、編集者、作家秘書などを経て、1997年「高知こどもの図書館をつくる会」のメンバーとなる。1999年4月「高知こどもの図書館準備室」事務局スタッフ。1999年12月日本で最初のNPO法人が設立し運営する「高知こどもの図書館」開館。職員として勤務した後、2011年6月NPO法人高知こどもの図書館館長に就任。移動時に本がないと不安でいつも1~2冊本を持ち歩く、軽度の活字中毒者。

牧野 鈴子 (まきの すずこ/イラストレーター)

熊本県出身。イラストレーターとして仕事を始め、1976年に高木護の詩「どんな？」挿絵で雑誌『詩とメルヘン』(サンリオ)デビュー(8月号)。これを機に

絵本、童話、詩集などを、主な活動の分野としていった。1979年第5回サンリオ美術賞受賞。1981年に画集『スポンタネット 大理石の肖像』（サンリオ）刊行。1983年『森のクリスマスツリー』（文研出版）で、ボローニャ国際児童図書展エルバ賞推奨。1984年『おはいんなさい えりまきに』（金の星社）でサンケイ児童出版文化賞受賞。1989（平成元）年画集『ピヴォット』（サンリオ）刊行。2012年、「メルヘンを彩る幻想世界～牧野鈴子のまなざし～」展開催（軽井沢絵本の森美術館）。2013年『お姫さまお菓子物語』（今田美奈子・文、朝日学生新聞社）刊行。

湯山 昭（ゆやま あきら／作曲家 一般社団法人日本童謡協会会長）

神奈川県出身。県立湘南高校を経て1951年東京藝術大学音楽学部作曲科に入学、池内友次郎に師事し作曲法の研鑽に励む。1955年に東京藝術大学を卒業後、本格的な作曲活動に入る。主な作品に、芸術祭大賞を受賞した合唱組曲「コタンの歌」や、「あめふりくまのこ」に代表される多数の子どもの歌があり広く愛唱されている。1970年に芸術祭大賞、1973年と1976年に日本童謡賞、1977年に芸術祭優秀賞を受賞。1993年6月には第5回サトウハチロー賞を受賞。子どもの音楽の領域がひろがる。2001年1月社団法人日本童謡協会会長に就任。2003年旭日小綬章受章。2010年第9回童謡文化賞を受賞。日本童謡の歴史に新しい足跡を残す。2017年7月15日、翌2018年の7月1日に迎える「童謡誕生100年」を祝う前奏曲として、湯山昭童謡愛唱歌100選『ゆうやけはなび』を全音楽譜出版社から刊行。童謡運動の先駆者を目指す。